

# 令和6年度 東京都立瑞穂農芸高等学校(全日制課程) 学校経営計画

## 1 教育目標と目指す学校像<スクールミッション>

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、心身ともに健康な民主社会の担い手を育成する。『生命(いのち)を学び、夢を叶える』教育方針に基づき、「分かる」「できる」「つかう」を目指した教育の実践を通じて、学習や将来への意欲を高めるとともに、自己への自信と生きる力を育成する。

- (1) 自立と協力の精神を高める
- (2) 幅広い教養と高い専門性を培う
- (3) 豊かな心と望ましい職業観を育てる
- (4) 学習指導の充実と心の教育

### ◇グラデュエーション・ポリシー

普通教育を基礎とし、農業や家庭の専門教育や指導をとおして、資格や検定を受験し、高度な専門的知識・技能を習得し、食・生命・環境に係るスペシャリストとなる人材を育成する。また、多様な価値観を受容でき、自他の良さを認め、コミュニケーションをとおして地域社会や国際社会に貢献できる有為な人材を輩出する。

### ◇カリキュラム・ポリシー

『生命(いのち)を学び、夢を叶える』スクールアイデンティティに基づき、「分かる」、「できる」、「つかう」スリーステップで学習を進め、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践する。

### ◇アドミッション・ポリシー

動植物・食料・環境などの農業に関する分野、保育・福祉、被服、食物などの家庭生活に関する分野に熱意をもって取り組み、本校で学んだことを更に生かすために、進学又は就職に向けて努力を惜しまない生徒。

校訓「至誠」「勤勉」「創造」に基づき、「生命(いのち)を学ぶ学校」としての特徴を発揮し、農業科教育と家庭科教育を通して、「わかる(理解)」「できる(習得)」「つかう(活用)」のステップで、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、豊かな心をもつ自立した社会人を育成する安全・安心な学校。

目指す学校像	(1)	生徒・保護者から信頼され誇りに思われる学校	
		①	安全・安心な学校生活を送ることができる学校
	(2)	地域から信頼・必要とされ誇りに思われる学校	
		①	情報発信、地域連携(貢献)活動を積極的に行う学校
	(3)	社会で活躍する人材を育てる学校	
		①	普通教育を基礎とし、農業や家庭の専門教育導をとおして、学び続ける力をもった人材を育てる学校
		②	特別活動をとおして社会の一員としての自覚をもたせ、人格の完成を目指す学校
	(4)	教員が働き甲斐をもって働く学校	
		①	生徒の成長に喜びを感じ努力を惜しまない教員を育てる学校
		②	教員がライフ・ワーク・バランスを実現し、より充実した生活を送り、成長しながら働くことができる学校

## 2 中期的目標と方策

全教育活動を通して、生徒が将来社会で活躍するために必要な力「社会人基礎力」を育成する

中期目標	(1)	第一志望に合格できる学力の養成
	(2)	社会で活躍する志の育成と規範意識・自主性・自立性の涵養
	(3)	人と関わる力や豊かな心、たくましい体の養成
	(4)	情報の「見える化」により、組織的な学校運営を図る
方策	(1)	第一志望合格を実現できる学力の定着と向上(外部模試の活用、寺子屋事業の活用)
	(2)	予習、復習を奨励し、宿題、課題等での自宅学習時間の確保
	(3)	規範意識、礼節、道徳を育てる教育の実践
	(4)	3年間のキャリア教育計画に基づいた進路指導の充実(民間OB事業の活用)
	(5)	学校行事、部活動、地域連携活動の活性化
	(6)	学級通信、学年通信、学科通信、各分掌通信発行の充実
	(7)	人権を尊重する教育の推進
	(8)	豊かな心、たくましい体、しなやかさを育む教育活動の実現
	(9)	環境教育も視野に入れた美化活動の徹底と潤いのある生活環境の整備
	(10)	組織的な募集対策の充実
	(11)	公開講座やHP・X(旧ツイッター)などによる開かれた学校づくりの推進
	(12)	企画調整会議の充実、学校経営計画に沿った組織的な学校運営の推進

## 3 今年度の取組目標と方策

- ・授業力向上：授業参観等を活用し授業PDCAを高める。
- ・地域連携：社会に開かれた教育課程の実践
- ・募集活動の充実：全職員で組織的な募集活動を行う。
- ・進路実現：進路カレンダーを基に組織的・系統的指導を行う。

<b>(1) 教育活動の目標と方策</b>			
① 学習指導	目標	(ア)生徒が希望する進路を実現するために必要な学力の育成（民間OB活用事業の活用） (イ)未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力とそれを支える基本的知識・技能及び学びに向かう力の育成	
	方策	<b>(ア)授業力向上、授業改善、SDGs、AL・UDLの視点を取り入れた授業の実施</b>	
		A	本校生徒の学力を的確に把握し、学習指導要領の示すところに従い、スクール・ポリシーを踏まえた適切な授業計画の作成及び授業時数の確保を行い、卒業時まで身に付けるべき学力の設定を行います
		B	生徒による授業評価アンケートの結果を生かして、分かりやすい授業をするための工夫を行うなど、学力及び専門科目に関する知識や技術の向上に向けた取り組みを行います
		C	『主体的・対話的で深い学び』となるように授業改善を図り、生徒の学力の向上を図ります
		D	各教科は、持続可能な社会づくりに向けた教育のために、SDGsを取り入れた授業を実施します
		E	スタディサプリの活用推進及び学力向上事業（校内寺子屋）を活用し、生徒の学力向上につなげます（教務部・進路指導部・各教科との連携）
		<b>(イ)授業外の学習（補習・講習、プロジェクト・家庭学習）・資格取得の奨励、反復学習の実施</b>	
		A	アグリマイスター顕彰制度や農業技術検定、家庭科技術検定などの資格取得を目指して、専門的な知識や技術の向上を図ります
		<b>(ウ)言語活動の充実、コンクールへの参加</b>	
		A	高校生としての「読解力」を育成し、「アウトプット」も重視して生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する
		B	夏季休業中の読書月間には、各教科で課題図書・推薦図書などを設定して、読書活動をより一層推進するとともに、ビブリオバトルに積極的に取り組ませます
		C	全教科・科目において、レポート作成や作文、授業内発表の機会を作り「読む」「聞く」「書く」などの言語能力をさらに充実させます
		<b>(エ)高大・地域連携、その他</b>	
		A	高大連携事業をさらに発展させ、研究室訪問や大学教授による講演会、大学での実習実験体験を行うことで、生徒に最新の知識や技術に触れさせ農業科・家庭科への関心を高めさせます
	B	全教科・科目でオリンピック・パラリンピックの意義や精神、歴史などに触れ、生徒の心にオリンピックのレガシーを構築させます	
	C	専門教科では、JGAP、都GAP、HACCPなどの認証制度に関する教育を推進します	
	② 生活指導	目標	(ア)基本的生活習慣の確立、規範意識（学校生活の規律を大切にす態度）の醸成 (イ)自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にす）・礼節の涵養 (ウ)危険を察知し回避する能力の育成 (エ)学習環境の整備。生活指導部、学年、特別支援委員会との連携による生徒理解に基づく相談機能の充実
		方策	<b>(ア)基本的生活習慣の確立、規範意識（学校生活の規律を大切にす態度）、マナーの醸成に向けた、全教職員による年間と通じた継続または指導期間の指導（登校、授業、集会、HR、職員入室時など）</b>
			A
B			自主自立の心を育み、自ら考えて行動する生徒を育成するとともに、いじめ・体罰を許さない学校という認識を教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認めあう指導を行うことで、安全・安心な学校生活を送ることができるようにします
<b>(イ)自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にす）に向けた指導</b>			
A			薬物乱用防止教室やセーフティ教室を通して、自他の生命や人権を尊重する指導を推進し、豊かな心を育み、年間3回の生活実態調査を実施します。また、いじめの起きない環境を作ります
B			1学年は、4月のオリエンテーションにおいて「いじめ防止に関する研修」を行います
C			安全教育、特に交通安全教育を充実させ、登下校時のマナーと自転車事故防止の徹底を図ります
D			スクールカウンセラーなどを活用した学校教育相談及び特別支援委員会を活用し、生徒の支援を充実させ、いじめ防止の取り組みや自殺防止対策に資する教育の推進を図ります
E			生徒の様子や変化に敏感に対応し、家庭との連携を密にとることで自殺防止に努めます
<b>(ウ)危険を察知し回避する能力の育成に向けた安全指導と注意喚起（全職員）</b>			
A			防災訓練を通して、自助・共助の在り方や土砂災害警戒区域内にある学校としての在り方を学び、日ごろより地域と連携した防災教育を実践します
B			瑞穂町役場・福生消防署瑞穂出張所と連携した防災教育に力を入れます
<b>(エ)学習環境の整備</b>			
A	生活指導部、学年、特別支援委員会との連携による生徒理解に基づく相談機能の充実を目指します		
<b>(オ)情報発信への取組</b>			
A	生活指導部通信などの定期発行に努め、基本的生活習慣の確立につなげます		
③ 進	目標	(ア)3年間の進路カレンダーを活用し進路実現に向けた進路指導の充実（民間OB活用事業を活用） (イ)自己・職業（上級学校）理解の推進、キャリアプランニング・人間関係育成能力の育成	

路 指 導		(ウ)キャリアパスポートを作成し、キャリア教育を推進	
		(エ)確実な公文書（調査書、推薦書）作成	
	方 策		<b>(ア)生徒の能力向上と生徒理解（興味・関心、能力・適性）に基づく進路指導</b>
		A	進学希望者全員が大学や短大への進学を可能とするよう、1学年より学習指導・論文指導をはじめとする受験指導を徹底します
		B	就職希望者には第一希望の職場に合格できるよう、学習指導・論文指導・礼節指導をはじめとする必要な指導を徹底します
		C	スタディサプリの活用及び学力向上事業（校内寺子屋）の活用を行い、生徒の学力向上につなげます（教務部及び各教科との連携）
			<b>(イ)3年間を見通した計画的なキャリア教育</b>
		A	進路カレンダーを基にキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に進路選択を行える生徒を育てます
		B	3年間を見通した学びのロードマップを基に、民間OB活用事業を活用し組織的・計画的な進路指導を行い、進学や就職など、すべての生徒の希望進路の実現を目指します
			<b>(ウ)ICT機器などを利用した履歴の記録</b>
		A	ICT機器を利用し学習、特別活動、資格取得等の記録を行います（データの一元化）
			<b>(エ)点検機能の充実</b>
	A	点検機能を充実させ、公文書・私文書のミスをゼロとします	
④ 特 別 活 動 ・ 部 活 動	目 標	(ア)学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動の活性化	
		(イ)達成感、成就感の感じられる活動	
		(ウ)自主性、社会性、協調性の涵養	
	方 策		<b>(ア)学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加</b>
		A	学校行事・部活動への取り組みをより充実させ、自他の個性を尊重し相互に高め合い磨き合う集団作りを重視し、質の高い学校行事を実現すべく支援します
			<b>(イ)部活動の充実、競技力の向上により達成感、成就感の感じられる活動とします</b>
		A	部活動掲示板など日々の活動報告の充実
		B	ホームページ及びX（旧ツイッター）などによる日々の情報発信
	<b>(ウ)部長会、生徒会、委員会、農業クラブ、家庭クラブ組織を活用し自主性、社会性、協調性を涵養します</b>		
A	委員会等掲示板の活用		
⑤ 募 集 ・ 広 報	目 標	(ア)学校の取り組みに関する積極的な情報発信、安定した入学者選抜応募倍率	
		(イ)募集活動を全職員で組織的に推進	
		(ウ)地域連携活動の推進	
		(エ)校内掲示の充実	
	方 策		<b>(ア)ホームページ、Xなど、学校パンフレットの充実、学校説明会、体験入学、学校・塾訪問、出前授業により学校の取り組みに関する積極的な情報発信、安定した入学者選抜応募倍率を目指します</b>
		A	母校訪問を7月に実施します（予定）
		B	総務部は、取り組んでいる募集活動関連のデータを精査します
		C	リアルタイムな情報発信を行います
	<b>(イ)募集活動を組織的・計画的に推進し、全職員が取り組む体制を整え募集活動の充実を図る</b>		
	<b>(ウ)地場産業界・自治体との連携や公開講座など、地域連携活動を推進します</b>		
	<b>(エ)校内掲示を充実させ、来校者に本校の教育への理解を深めます</b>		
⑥ 健 康 促 進	目 標	(ア)健康管理、保健教育の充実	
		(イ)美化活動、環境整備の推進	
		(ウ)的確な（必要に応じた）教育的支援の実施	
		(エ)体力向上	
	方 策		<b>(ア)生徒状況の把握と病気・怪我への迅速な対応。外部講師・掲示を活用した保健教育</b>
		A	生徒の健康安全について、全教職員による指導・協力体制を一層確立し、心身の健康づくりと早期ケアを充実させます
		B	スクールカウンセラー事業を有効に活用し、研修等を通じて学校全体の相談体制・カウンセリング能力のレベルアップを図ります
			<b>(イ)清掃用具などの整備、清掃指導、美化活動、環境教育の充実により教育環境の整備を含め、生徒の健康安全を図ります</b>
			<b>(ウ)合理的配慮の把握と支援方法の工夫。SC・外部機関との連携。教職員との共通理解推進</b>
		A	研修の実施により発達障害に関する知識理解を全教職員が意識し、特別支援教育を推進し、個別案件に対して適切な対応をとる体制作りを行います
B	通級による指導体制を、学年及び各分掌と連携を図り組織的に行います		
	<b>(エ)「TOKYOACTIVE PLAN for students」（令和4年3月策定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））を参考にした生徒の体力向上への取組</b>		

		A	全学年において体力テストの意義や目的を理解させた上で、年間指導計画に位置付けて実施します。また、結果の分析・評価を行い「基礎体力の補強運動」等を通して体力・運動能力の向上を図ります	
⑦ 学校経営	目標		(ア)教職員の資質向上、組織力(教職員、保護者、同窓会、地域)の強化	
			(イ)経営企画室の経営参画、施設設備の整備	
			(ウ)ライフ・ワーク・バランスの実現	
			(エ)服務事故0	
	方策		<b>(ア)OJT・OffJT、自己研鑽、保護者・同窓会との連携強化</b>	
		A	常に教職員のベクトルを揃えることを目指して、企画調整会議・各分掌部会・学年会教科会等での積極的な意見交換ができるように環境を整備します	
		B	外部団体との協力体制を強化します	
			<b>(イ)経営企画室・教員の連携、計画・効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修</b>	
		A	経営企画室は、経営目標を見据えた学校予算の編成と適正な事務執行を行うとともに、企画型・経営参画型の経営企画室運営を目指していきます	
			<b>(ウ)業務把握・削減・分担、意識改革、明るい職場</b>	
		A	管理職は、ライフ・ワーク・バランスを意識して業務の効率化、残業時間の削減などに取り組みます	
		B	仕事の効率化を図るために、最大限のPCミニマムスキルを活用します(Teamsなどの活用を含む)	
		C	管理職は、何でも言い合える明るい職場風土の形成に努めていきます	
	<b>(エ)計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的 point 点検の実施</b>			
A	服務事故0を目指し、研修を実施するとともに教職員一人一人は意識向上に努めます			
⑧ 地域貢献活動	目標		(ア)地域と学校との互助関係の構築	
			(イ)地域から愛され誇りに思われる学校	
	方策		<b>(ア)地域産業界・自治体・他校種との連携</b>	
		A	地域産業界や自治体と連携を図り、地域の専門高校としての存在感を示していきます	
			<b>(イ)地域行事への参加、ボランティア・町内装飾活動</b>	
		A	高齢者施設や保育園等の施設訪問やボランティア活動、地域行事への参加などの奉仕的活動を通して、地域との交流を図り地域貢献への意識を高めます	
		B	JR箱根ヶ崎駅の改札口装飾、都庁花壇植栽、移動動物園、保育園、高齢者施設での実習など、実習やボランティア活動、地域の行事における生産品販売などに取り組みます	
C	地域の産業祭・残堀川フェスティバルなどへ参加し、本校の教育内容を広く知らせるとともに、年間を通じて地域との連携に努めます			
<b>(2) 重点目標と方策</b>				
① 学習指導	方策		<b>(ア) 授業力向上、授業改善、SDGs、AL・UDLの視点を取り入れた授業の実施</b>	
		A	確かな学力(基礎基本、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲)を育成する授業を研究し、全教員が授業改善に努めます	
		B	AL・UDLの視点を取り入れた授業を全教員が3回以上実践し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の改善に向けた研究を行います	
		C	教科会を充実させ、教科としての組織的指導力を高め学力を身に付けさせます	
		D	授業力向上のため、教員相互の授業参観(他教科を含む)を、年3回以上必須として取り組みます	
		E	生徒による授業評価を実施し、全教員が生徒による授業評価、小テスト、定期考査を活用し授業改善を図るとともに、改善策を生徒にフィードバックします	
		F	グランドデザイン、ルーブリック評価表(「わかる」「できる」「つかう」)を作成し、アクティブラーナー育成の効果を確認します	
		G	Microsoft Teams等を活用した新たな学習の展開を行います	
		H	各教科は、SDGs17項目持続可能な開発目標を選択して、各学期1回以上の授業を実施します	
			<b>(イ)授業外の学習(補習・講習、プロジェクト・家庭学習)・資格取得の奨励、反復学習の実施</b>	
		A	授業外の学習を前提とした授業を組み立て、自学自習の態度を育成します	
		B	校内寺子屋事業の実施と組織的な補習・補講体制の確立として、長期休業日中に進学対策及び学力向上のための講座を10講座以上、延べ60名以上の受講者を目指します	
		C	農場をはじめとする実習施設の管理を徹底し放課後等生徒の活動の場を増やすとともに農業クラブ・家庭クラブ活動を推進しプロジェクト学習に取り組みさせます	
		D	農業科は、FFJ検定の全員取得に加えアグリマイスター顕彰制度の取得を目指します 家庭科は、技術検定(4級)全員合格を目指します	
		E	農業科教育では、経営感覚を高めるとともに6次産業化教育を行います。 家庭科教育では、地産地消教育に取り組みます	
		F	中高校生がもつべき基礎知識の反復指導により、学力の定着と考える力・創造する力を育みます	
		G	スタディサプリを活用し、放課後学習及び家庭学習の定着を目指します	
			<b>(ウ)言語活動の充実、コンクールへの参加</b>	
		A	読書活動を充実させ、本を読む習慣付けを行います	
	B	すべての科目において、読む・聞く・書く等の言語活動を充実させます		

		C	音読や長文読解、作文（800字程度）、発表等の機会を設定し論理的に考える力を付けさせます		
		D	アウトプットの機会を与え、分かりやすく伝えるための発表の仕方と話し方を身に付けさせます		
		E	資格・検定の受検や教科に関連した各種競技会やコンクール等への参加を推進し、達成感・成就感を与え学習への意欲を高めさせます		
		<b>(エ) 高大・地域連携、その他</b>			
		A	高大連携や地域連携を活用し高度・多角化した専門的内容の習得に必要な汎用性のある基礎的な知識・技術を身に付けさせます		
		B	学校の特色を生かした、学科、教科間の連携を推進します		
		C	生徒の学習成果をポートフォリオ化して、学習の成果が実感できるようにします		
		D	学習指導要領により、その学科・教科はGAP教育（JGAP、都GAP）を推進します。また、校内研修を実施します		
		E	瑞穂農芸高校HACCPを活用して、2015年食品表示法に対応した食品表示を学びます		
		F	カリキュラムマネジメントにより、学校の特色を生かした学科、教科間の連携を推進します		
		G	環境に配慮した社会生活及び人間生活のあり方を考え、実行する生徒を育成します		
		② 生活指導	方策	<b>(ア) 基本的生活習慣の確立、規範意識（学校生活の規律を大切にす態度）、マナーの醸成に向けた、全教職員による年間と通じた継続または指導期間の指導（登校、授業、集会、HR、職員室入室時など）</b>	
				A	無遅刻・無欠席に向けた指導を全教員で実施します
				B	あらゆる場面（登校時、定期考査時、始業・終業・修了式時、集会時、職員室入室時、廊下ですれ違い時など）で挨拶・マナー・身だしなみ指導を全教員で行います
				C	授業準備、チャイム着席、授業規律を全教員で徹底します。その為に「チャイムで始まり」「チャイムで終わる」授業を実践します
D	教職員は、授業等で教室移動があることから、SDGsの観点により節電を促す指導を行います				
<b>(イ) 自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にす）に向けた指導</b>					
A	相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション（言葉遣い・態度）ができるよう指導します				
B	教員の体罰等不適切な指導を根絶し、教員・生徒に暴力、暴言を否定する心を醸成します				
C	いじめ総合対策に基づき、いじめや迷惑行為の早期発見・解決に努め、安心できる環境を実現します				
D	LINE、X等による誹謗中傷、いじめ嫌がらせ防止の指導を行います。また、ホームルームにて、パワーポイントを活用した「いじめ防止ガイド」を実施します				
E	自殺総合対策大綱に基づき、自殺対策に資する教育を推進します				
F	SOSの出し方に関する教育、心の健康の保持に係る教育を推進します				
<b>(ウ) 危険を察知し回避する能力の育成に向けた安全指導と注意喚起（ホームルーム担任、専科教員他による）</b>					
A	避難・防災訓練を通して、災害安全、自助・共助の能力と態度を育みます				
B	私物の管理意識を向上させ、物品紛失をさせない指導を行います。個人ロッカー施錠の徹底（ロッカーの施錠率100%）に努めます				
C	自転車事故・防止、薬物乱用防止、特殊詐欺の被害・加害防止などの健全・安全指導を実施して、事件・事故防止に努めます				
<b>(エ) 学習環境の整備</b> 生活指導部、学年、特別支援委員会との連携による生徒理解に基づく相談機能の充実					
A	環境教育の実践指導として、清掃活動指導の継続を図ります。また、ゴミの分別指導を行います				
B	学年・各分掌・専科の教員・SCの連携を図り、組織として課題解決に当たります				
C	学校不適応や問題行動による中途退学者を出さない指導を徹底します				
<b>(オ) 情報発信への取組</b>					
A	生活指導部だより（夏・冬・春）などの定期発行に努め基本的生活習慣の確立につなげると共に、定期考査前の部活動連絡やその他の情報を発信します				
③ 進路指導	方策	<b>(ア) 生徒理解（興味・関心、能力・適性）に基づく進路指導</b>			
		A	1学年からの生徒一人一人の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、生徒全員の進路先が決定することを目指します		
		B	適性検査、二者面談及び学年・専科との情報共有を行い、生徒の適性に合った進路決定を目指します		
		C	1・2学年は、三者面談を年間1回以上設定して全保護者との連絡を密に行い、保護者と連携を図りながら進路決定を目指します		
		D	複数の企業見学や生徒の就職先への企業訪問を実施して、離職率を低減します		
		E	企業訪問を全教員（専科一人一社以上）で実施し、就職先の新規開拓を行います		
		F	進学希望者に対してライフプラン指導を徹底し、就職や大学・短大に目を向けさせ、自己の確かな将来を考えさせます		
		G	積極的なスタディサプリの活用と校内寺子屋を組み合わせた指導により、学びの質を向上させます		
		<b>(イ) 3年間を見通した計画的なキャリア教育</b>			
		A	全教育活動において、キャリア教育を推進し、自己のあり方、生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育みます		

		B	進路指導部と学年が緊密に連携し、各学年に応じたキャリア教育・進路指導を計画的に実施し生徒が希望する進路を実現させます。そのために、進路だよりを配布して進路意識を涵養させます
		C	基礎学力向上について学校全体で取り組み1・2年生は学力向上、3年生は生徒一人一人の進路希望に対応した組織的な指導を推進します
		D	進学希望者には、全員が大学や短期大学への進学を可能とするよう、低・中学年から学習指導・論文指導をはじめとする受験指導を徹底します
		E	就職希望者には第一希望に合格できるよう、学習指導・論文指導・礼節指導をはじめとする必要な指導を徹底します
		F	校内での説明会・進路ガイダンスを計画的に実施します。その内容を進路だよりに掲載します
		G	高大連携、地域の授業関連施設や産業現場の見学・実習などをおして、生徒の進路意識を高めます
		H	インターンシップ、現場実習をはじめとして、校外での職場体験をさせることで職業観を育成します
		I	1年全生徒は、夏季休業中にキャンパス訪問を実施させます（予定）
			<b>(ウ)ICT機器等を利用した履歴の記録</b>
		A	学習、特別活動の記録をデジタルデータとして蓄積します（各学科の資格取得データの一元化）
			<b>(エ)点検機能の充実</b>
		A	調査書、履歴書、推薦書の点検を確実にを行います
④ 特別活動・部活動	方策		<b>(ア)学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加</b>
		A	生徒一人一人が活躍する場を作ります
		B	学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動等へ、積極的に参加させ社会性を育みます
		C	生徒に部活動への参加を促して、加入率を70%以上にします
		D	学年や全校集会の機会を積極的に活用し、集団行動・集会態度の基礎を身に付けさせます
			<b>(イ)活動の充実、競技力の向上</b>
		A	活動を充実させ競技力を向上させ生徒に達成感や充実感を与えます
			<b>(ウ)部長会、生徒会、委員会、農業クラブ、家庭クラブ役員の活用</b>
		A	部長会、生徒会、委員会、農業クラブ、家庭クラブでは生徒の自立的運営部を目指します
			<b>(エ)その他</b>
A	東京都教育ビジョン（第5次）（令和6年3月策定）及び「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進します。特にTeamsを活用したオンライン授業の工夫に努めます		
⑤ 募集・広報活動	方策		<b>(ア)ホームページ・学校パンフレットの充実、学校説明会、体験入学、学校・塾訪問、出前授業</b>
		A	都立高校の魅力向上に向けたプログラムを活用して、教育活動や学校生活の状況等を、HPやX、学校紹介、学校生産品を通して情報発信します
		B	中学校訪問、出前授業、体験入学、学校説明会、学校見学会、地域連携事業を積極的に行い、本校への理解を深めミスマッチをなくします
		C	ホームページやX、各種広報・たよりなどの発行により、保護者はもとより地域（中学校など）への情報発信をリアルタイムに行います
		D	生徒・全教員による中学校訪問や塾訪問を実施し、各学科とも安定した応募者数を確保します
		E	中学校訪問、塾訪問、体験入学、学校説明会、個別相談会等を実施し、各学科とも第一次募集において応募倍率を確保します
			<b>(イ)地場産業界・自治体との連携、公開講座</b>
		A	農業・家庭の専門教育を生かした公開講座、中学生及び地域住民対象の体験実習等を実施します
		B	本校の教育活動を、マスコミ等で取り上げてもらう活動を推進します
		C	農場部は、授業と関連付けた販売所の活用方法を検討して実践します
			<b>(ウ)美化活動、掲示活動</b>
		A	校内、農場の美化に努め来校者に好印象を与えます
		B	教育資産に表示を付け、学校施設や教育内容の「見える化」を促進します
C	学習内容や学習成果を校外に掲示して、教育活動への理解を深めます		
⑥ 健康促進	方策		<b>(ア)生徒状況の把握と病気・怪我への迅速な対応。外部講師・掲示を活用した保健教育</b>
		A	保健室来室者の生徒状況の把握と病気・怪我への迅速な対応をします
		B	外部講師を招聘し保健講話を実施します
		C	掲示、たよりを活用し保健教育を推進します
			<b>(イ)清掃用具等の整備、清掃指導、美化活動。環境教育の充実</b>
		A	定期的に点検し清掃用具を整備します
		B	快適な学習環境を維持するために清掃活動を徹底します
		C	ゴミの分別・減量に努め環境教育を推進します
	<b>(ウ)合理的配慮の把握と支援の工夫（SC・外部機関との連携、共通理解推進及び研修の実施）</b>		
A	特別支援委員会、SCを活用し、特別な支援を必要とする生徒の情報を管理・活用し、生徒の指導・育成に生かします		

		B	特別支援委員会を通じて、支援を必要とする生徒の情報を共有し、生徒が安心して過ごせるように支援します。また、継続的な「特別支援教育推進だより」の発行と内容をさらに充実させます
		C	生徒理解に関わる校内研修を定期的に開催し、生徒理解の推進と教員のカウンセリング能力を高め相談体制の充実を図ります
		D	合理的配慮に対する理解を推進し、継続的に生徒、保護者、教員を支援します
		E	生徒理解を積極的に行い、一人一人の生徒に合った指導や支援態勢を組み立てます
		<b>(エ) 「TOKYOACTIVE PLAN for students」(令和4年3月策定) (総合的な子供の基礎体力向上方策(第4次推進計画))を参考にした生徒の体力向上への取組</b>	
		A	運動の重要性を理解できる指導に学校全体で取り組み、運動の機会を増加して体力向上を推進します
		B	(エ)を踏まえ、生徒の体力向上に対する取り組みを推進します
		C	学校保健計画に基づき、健康診断、保健講演会、健康相談、学校保健委員会等に加え日常の運動の重要性の指導を通し体力向上を図り、生徒の心と身体の健康づくりを行います
⑦ 学校経営・組織体制	方策	<b>(ア)OJT・OffJT、自己研鑽、保護者・同窓会との連携強化</b>	
		A	同窓会との連携を深め、在校生支援の方策を活用して、生徒の学習環境の整備に当たります
		B	無断欠席や早退・授業の中抜けがあった場合は、保護者への連絡を行い本人への指導を行います
		<b>(イ)経営企画室・教員の連携、計画・効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修</b>	
		A	消耗品、施設・備品の共有化を図り、予算の効率的な執行に努めます
		B	実験実習の施設・設備の効率的な利用に努め稼働率を上げます
		C	経営企画室の経営参画を推進し、経営参画型経営企画室の実現を図ります
		D	備品をはじめとする物品管理を徹底し、使用率を高め学校予算を適正執行します
		E	安全のための施設設備及び学校運営の改善を図ります
		F	経営参画ガイドラインを策定し、経営企画室の経営参画を推進します
		G	学校徴収金の適正な管理を行います
		H	施設・設備の整備を促進し、教育の充実を図るとともに圃場の整理・整頓・整備に心がけ、専門教育の充実を図ります
		<b>(ウ)業務把握・削減・分担、意識改革、明るい職場</b>	
		A	I C T計画を通して、校内ネットワークや情報共有と情報管理を推進します
		B	Microsoft Teams、タイムスメール・パワーポイントなどを活用して、業務の効率化を図ります
		C	学校連絡用メールアドレスを取得し、業務の効率化に向けた活用を行います
		D	教職員の情報の共有化を図り、連携や連帯意識を醸成します
		E	学校における働き方改革推進プランに基づき、ライフ・ワーク・バランス対策を推進します
		F	企画調整会議や各種委員会の連携のもと、情報を共有化し円滑な学校運営を実現します
		G	年度当初に管理職が適正なイクボス宣言を行い、職場の主要な場所に掲示して教職員全体の「働き方改革」に対する意識向上を図ります。また、「部活動ガイドライン」に従い、活動・指導時間の適正な管理に努めます
		H	定時外在校時間及びその要因となる業務の内容を把握します
		I	産業医と連携して、前年度の定時外在校時間が多い教員やストレスチェックで課題のあった教員と面談し、業務縮減や心身の健康維持に対する具体策について指導・助言します。また、原因に応じて、校内の協力体制を強化するよう全教職員に働きかけます
		<b>(エ)計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的 point 点検の実施</b>	
		A	個人情報管理の管理体制をさらに強化し、事故防止に努めます
		<b>(オ)その他</b>	
		A	各教科・学科を通じて、教育の特色化を行い、本校の独自性と知名度を高めます
		B	安全で安心な生產品の製造・加工に取り組み、本校の信頼を高めます
C	土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域などを踏まえた防災対策や防犯対策を推進します		
⑧ 地域貢献活動	方策	<b>(ア)地域産業界・自治体・他校種との連携</b>	
		A	本校の高い専門性を活用して地場産業界・自治体との連携を図り、地域の専門高校として地域の発展・本校の活性化を図る地場産業の発展に寄与します
		B	小中高連携、高大連携、他校種間連携等を積極的に推進します
		C	生徒の体験学習、インターンシップ、ボランティア活動等を積極的に推進します
		<b>(イ)地域行事への参加、ボランティア・町内装飾活動</b>	
		A	地域の各種行事や催し物(産業祭、瑞穂町駅伝他)への積極的な参加により、学校の信頼を高めます
		B	「人間と社会」、各学科の専門性を生かした、ボランティア・地域貢献活動、町内美化活動を実践します
C	防災活動支援隊は、地域防災訓練に参加するなど、防災訓練に地域貢献活動を取り入れて実施します		

4 令和6年度の数値目標					
	項目	今年度の数値目標		4年度(実績)	5年度(実績)
(1)	学習活動	①	生徒の授業満足度(90%以上)	90.6%	86.5%

		② 原級留置者 各学年 (0.2%以下)	0.2%	0.2%
		③ 各種資格・検定合格者 (生徒数以上)	522名	650名
(2)	生徒指導	① 1日1クラス当たりの遅刻者数(1人以下)	0.95名	1.25名
		② 年間の遅刻30回以上の生徒(15人以下)	10名	34名
		③ 中途退学者率(2%以下)	0%	0.2%
(3)	進路指導	① 第一志望決定率(90%以上)	96.3%	96.4%
		② 卒業時進路決定率(95%以上)	93%	99.4%
		③ 就職決定率(100%)	96%	100%
		④ 進学者に占める四大・短大割合(40%以上)	52%	38.8%
		⑤ 関連への進路決定者(70%以上)	60.1%	69.9%
(4)	募集対策	① 生徒・全教員による中学校訪問、塾訪問 180校以上(教員1人3校以上)	267校	105校
		② 説明会、体験入学等来場者(1,000名以上)	793名	1040名
		③ ホームページ等更新回数(300回以上)	266回	349回
		④ 第一次応募倍率 各学科 1.20倍以上 / 全体 1.3倍以上	園芸 (0.80) 畜産 (1.60) 食品 (0.68) 生活 (1.02) 全体 (1.02)	園芸 (0.92) 畜産 (0.96) 食品 (0.92) 生活 (0.67) 全体 (0.82)
(5)	教育活動 の充実	① 生徒の学校満足度(85%以上)	85.2%	84.6%
		② 各種校内研修(15回以上)	17回	17回